

質の高い需要に応える 不動産



三井不動産は物流施設の開発事業拡大を加速している
(2017年1月完成予定の物流施設「三井不動産ロジスティクスパーク小牧」)

対象多様化進む

不動産投資市場

総合不動産サービスの米ヨーロッパ・ラグランジアール(ヨーリー)がまとめた投資分析リポートによると、日本は2014年の内閣府による不動産投資額は前年比17%増の4兆6,600億円となり、08年と同程度の水準となつた。同社は上場している不動産投資信託(REIT)に加えて、私募REITやその設立型REITの上場、ホテルなど投資対象は、他ファンド、海外投資家

の多様化も進んだ。

資本の多様化も進んだ。

JRの調査では14年過去最高の10.1になつた。中でも日本は買い主が全ホテル取引数の76%を占め、JREITによるホテル買収が自立するという。足元の訪日外国人観光客の増加に加え、2014年の東京五輪開催を機に、国内のホテル需要も順調に伸びると予想される。

一方、国交省ではヘルスケアリートの活用に関する調査では、年内の物件取得額は約1兆6,000億円だつた。資産規模については

約1兆6,000億円に拡大した。14年は海外不動産の取得やヘルスケア施設として、有識者が構成する「病院等を対象とするヘルスケアリートの活用に

関連する調査では、日本橋が今、とてもにぎやかだ。

日本橋が今、とてもにぎやかだ。

日本橋が今、とてもにぎやかだ。